

## ゴリラのリーダーシップに学ぶ

校長 香山 和昭

3年生は、6月25日（火）～27日（木）の2泊3日で奈良・京都へ修学旅行に行ってきました。「僕らの愉快的旅日記～いにしへの文化に触れ、歴史を深く知り、自己を高めよう～」をスローガンに掲げ、実行委員会（岩井立樹委員長）を中心に、話し合いを重ねてしっかりと準備を進めてくれました。この3日間、生徒たちは「しおり」をしっかりと読み、先を見通した行動ができるようになっていました。また、教師に指示されて動くのではなく、一人一人がリーダーとしての自覚を持ち、フォロワーとしての役割もしっかりと果たしながら、自分たちで決めたルールと計画にのっとり、気づき、考え、行動していました。特に2日目は、一日中、班員だけでの班別行動でしたが全班が時間に遅れることなく旅館に戻ってきました。多少のトラブルはあったものの情報を収集して解決に導くなど、臨機応変な対応を取ることができ、随所に成長が見られました。今回の修学旅行では、3年生一人一人がリーダーとして活躍する場面がたくさん見られ、本当に素晴らしかったです。

さて、学校で生徒たちに身につけさせたい力の一つに、「リーダーシップ」があります。霊長類学者にして、ゴリラの研究の第一人者である、京都大学総長の山極壽一氏は、著書「私のリーダー論」の中に、理想のリーダー像をゴリラの社会に見出していますので紹介します。

### ゴリラのリーダーシップ

(1) ゴリラのリーダーに求められるのは『負けず嫌いな心』なんです。攻撃し合わずに張り合って、周囲も自分も納得して引き分ける。勝とうとする精神は、相手を屈服させ排除しようとするので、自分はだんだん孤独になっていく。でも負けまいという姿勢は、相手を対等に見るので、友達を失わずに済む。だから仲間ができる。そうやって人間の集団もつくられていったのでしょうか。ゴリラと人間の社会の底流に流れているものは極めて近いと思います。

(2) 大事なことは公平であることです。リーダーは、メス同士や子ども同士の間に起こったトラブルを仲裁しますが、決してえこひいきはしない。えこひいきをすると、されなかったほうは恨みを抱き、離れていこうとしますから。どちらかに加担することなく、トラブルそのものを瞬時に止める。そこから信頼感が芽生えます。

(3) ゴリラは言葉を話しませんから、態度が非常に重要です。まさに『背中で語る』。ゴリラのリーダーは、メスに対しては決して後ろを振り返りません。君らがついてくるのは振り返らなくてもわかっているよ、という威厳を見せないとイケないからです。でも子どもがついてくる時は、振り返る。ちゃんと気遣っているよ、というのを態度で示すのです。

勝ち負けを決めないゴリラから学べるが大いにあります。